

1. 本日本話すること

(ア)まちづくり（地域活性化）のトレンドとその変化

投資型からコンテンツ創出型へ

(イ)オリンピック・パラリンピックのトレンドとその変化

トップアスリーの祭典から、多様性を受け入れる社会の象徴へ

(ウ)パラリンピックへの注目と共生社会とのシンクロ

新潟県三条市と十日町市の事例

(エ)スポーツ施設のトレンドとその変化

限定目的（健康増進・スポーツ観戦）の場から、ファッションやライフスタイルと密着した施設へ

2. まちづくり（地域活性化）のトレンドとその変化-投資型からコンテンツ創出型へ-

(ア)地域活性化①

人口が増える

マンションや住宅地の造成、工場の誘致

(イ)従来型のまちづくりの方法（上山 2001）

投資型 開発によって地価を高める。工業団地、住宅団地、商業施設。税収を高める。固定資産税、法人税、所得税・・・

これらの手法による定住促進や産業振興、雇用創出は、税収向上は今日も大きな課題。

(ウ)地域活性化②

みんなが盛り上がるイベントがある

お祭り、花火、フェスティバル、運動会

(エ)今日的なまちづくりのキーワード

✓ 地域資源の活用や創造

① 人・組織・ネットワーク

② 自然資源

③ 伝統・文化

④ 特産物

⑤ 既存施設

✓ 外部資源の呼び込みや連携

① 外部人材

② I ターン、J ターン

③ 外部と連携したコンテンツの創出（スポーツ、芸術）

④ スポーツのゲーム

⑤ 芸術祭

✓ 協働を促す地域間競争

① プロスポーツクラブ

② B 級グルメ、ゆるキャラ

③ 地域ブランド

④ （地域ブランドは農産物や

⑤ 伝統工芸で昔から多く存在する）

3. オリンピック・パラリンピックのトレンドとその変化 —トップアスリーの祭典から、多様性を受け入れる社会の象徴へ—

(ア)オリンピック・パラリンピック①

① 世界最高峰のトップアスリーの祭典

② 進展する都市開発

(イ)オリンピック・パラリンピック②

- ① 多様化する種目：多様化・商業化・肥大化
- ② 多様化する主体：チャンスの共有

4. オリンピック・パラリンピックの2度の危機①

(ア)1980年代

アマチュアリズム/開催費用の国負担の限界

高度経済成長の終焉

スポーツビジネスの誕生

権利ビジネスの誕生

- ① 放映権料
- ② 公式スポンサー制度
- ③ サプライヤー制度
- ④ 商品ライセンスによるマーチャンダイジング

ロサンゼルス五輪の経済的成功

5. オリンピック・パラリンピックの2度の危機②

(ア)2010年代

行き過ぎた商業主義/豪華主義

先進国の低成長時代→開催国負担の問題の再燃→冬季五輪の会場

問題

(イ)オリンピック・パラリンピックの波及効果への着目

- ① 種目増加によるより多くの人にとって大会へ
- ② 開催地に遺るレガシー効果の強調
- ③ パラリンピックへの注目と共生社会とのシンクロ
- ④ ツーリズム促進によるホスト都市以外への波及効果の訴求
- ⑤ 地方創生とのリンクによる全国的イベントへ

(ウ)グローバル競争の象徴から文化的な多様性の象徴に移行できるか

(エ)今後の2020東京と2024パリで新たな方向性を提示できるか

6. 多様性の事例：パラリンピックと共生社会の接点

(ア)共生社会

「共生社会」とは、誰もが相互に人格と個性を尊重し支え合い、人々の多様な在り方を相互に認め合える全員参加型の社会である（文部科学省, 2012）

(イ)パラスポーツ

より多くの人々がスポーツに参加できるようにルールや用具を用意
スポーツに人が適応するのか、人に適応するスポーツを創っていく
のか

(ウ)まちづくり

地域社会に存在する資源を基礎として、多様な主体が連携・協力して、身近な居住環境を斬新的に改善し、まちの活力と魅力を高め、生活の質の向上を実現するための一連の持続的な活動（佐藤、2004）
→多様な人達によって担われているということと、

- 「まち」を暮らしやすく賑わいのあるようにするための取り組みであるということ
- 賑わいや暮らしやすさをもたらす取り組みが次の活動に波及していくこと
7. 国内のパラスポーツ普及の代表的取り組み
- (ア)障害者スポーツの本格的な普及・展開はこれから
- (イ)2014年段階で障害者スポーツを対象にしたイベント、教室、指導者／ボランティアの養成のいずれをも行っている市区（政令指定都市、中核市、特例市及び特別区）は1割（文部科学省：地方自治体における障害者スポーツ行政の現況調査）
8. 先進的に進むパラスポーツの普及と理解の促進（一部の例）
- (ア)紹介事例
- (イ)新潟県三条市
- ✓ 障害者スポーツを支える用具開発。
 - ✓ 障害者スポーツの課題を、地域と競技界が連携して解決することで継続的な活動につなげ、共生社会の実現に繋げようという取り組み
- (ウ)新潟県十日町市
- ✓ NPO法人が主体となって新たに始まったボッチャ大会
- パラスポーツに親しむためには、自らパラスポーツを楽しむことが不可欠だが、地域でその機会を提供する場合に、誰がどのように、何を展開
- するのかが非常に重要
9. パラスポーツとまちづくりのつながり
- ✓ パラリンピックは、障害の度合いに合わせて階級を分け、ルールを工夫することで、多くの人がスポーツを実施できるようにしようという発想を持つ
 - ✓ スポーツ（ルールや用具、個別技術）を人や社会が学び、適応するだけでなく、人や社会に適応するようにスポーツをデザインしていく
 - ✓ まちづくりは、地域やそこに住まう人々の事情に合わせて、ルールややり方を個別にカスタマイズしようというもの
 - ✓ まちづくりの解は地域ごとに異なる。進め方やそのルールをみんなで決めていくもの。そんなメッセージを送り、実践することがパラスポーツに関わることで可能に。
10. スポーツ施設のトレンドとその変化
- 限定目的（健康増進・スポーツ観戦）の場から、ファッションやライフスタイルと密着した施設へ
- (ア)閉ざされた施設 遠い施設
- (イ)スポーツシーンの多様化
- (ウ)加速する「スポーツ」の街中への進出と活性化
- (エ)日本ハムファイターズと北広島市の取り組み
- (オ)入場料無料のテーマパーク

